

科目名	ジェンダー論					開講 キャンパス	神 園
担当者	香 川 せつ子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	「男女共同参画社会基本法」のもとで、男女がたがいに人権を尊重し対等なパートナーシップを発揮して生きる社会の実現がめざされている。しかし現実には、性によって行動や生き方を制限されることが多く、また人権上の様々な問題も多発している。本講義では、ライフサイクルに沿ったジェンダー形成の様相を検討するとともに、現代社会の諸局面をジェンダーの視点から分析する。必要に応じてグループワークを導入し、家庭・職場・社会で発生する問題をジェンダーの視点から調査・発表し、それをめぐる討議を展開する。						
授 業 の 到達目標	1. ジェンダーの概念を理解し、説明できる。 2. 身体的性差と社会文化的性差の相違と関連性について説明できる。 3. 個人のジェンダー形成に及ぼす環境や教育の影響について理解し説明できる。 4. ジェンダーを分析軸として、家庭、学校、社会の諸事象を検討し、特徴を把握できる。 5. 少子高齢化や貧困・格差など現代社会の諸問題をジェンダーの視点から分析し、解決の方向性について考えることができる。 6. ジェンダーを学ぶことを通して、人権についての問題意識を深め地球的視野で考察することができる。 7. 学習した内容を整理し、レポートにまとめることができる。 8. ジェンダーに敏感な視点を養い、生き方の選択に役立てることができる。						
学習方法	講義（パワーポイントを用い、毎回のテーマに即してプリント資料を配布する。）グループワーク、発表、討議。数回の小レポート、1回の長レポートを課す。						
テキスト及び参考書等	テキストは使用しない（パワーポイント資料を用意し、適宜プリント資料を配布する） 参考図書：伊藤公雄・牟田和恵『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社）、天野正子・木村涼子編『ジェンダーで学ぶ教育』（世界思想社）等						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	○	○					30
宿題・授業外レポート	◎	◎	○	○			50
授業態度			◎				5
受講者の発表		○	○	○			10
授業への参加度			○				5
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	ジェンダーとは何か						
第 2 週	性の多様性						
第 3 週	「男らしさ」「女らしさ」とは？						
第 4 週	幼少期のジェンダー形成						
第 5 週	学校教育とジェンダー						
第 6 週	職業とジェンダー（1） 男女が働く条件は？						
第 7 週	職業とジェンダー（2） 男女雇用機会均等法とワーク・ライフ・バランス						
第 8 週	少子化とジェンダー						
第 9 週	高齢化とジェンダー						
第 10 週	政治とジェンダー						
第 11 週	人権とジェンダー（1）セクシュアル・ハラスメント						
第 12 週	人権とジェンダー（2）ドメスティック・バイオレンス						
第 13 週	人権とジェンダー（3）性犯罪、性産業と人身売買						
第 14 週	国際社会とジェンダー 世界の動き、日本の動き						
第 15 週	レポートについての講評とまとめ						
第 16 週							
備 考	受講生は、授業以外の日常生活の中で、新聞やテレビのニュース・報道記事に関心を払い、ジェンダーや人権について敏感な視点をもつことが望まれる。						